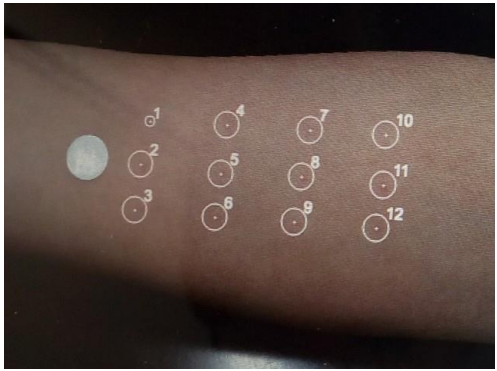
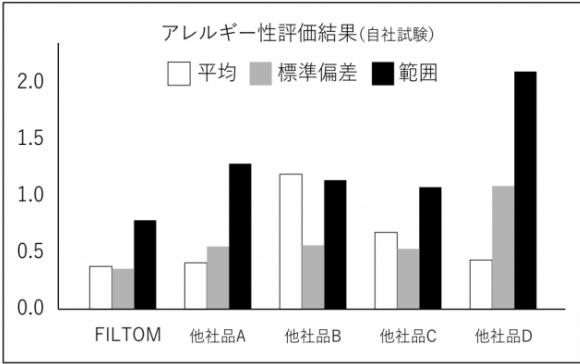


生プラセンタエキスは世界初の新素材であるため、高度なアレルギーテストが必須要件となります。FILTOM は新素材に含まれる未知の微量成分にも対応できる最新のアレルギーテスト「イメージセンシング法」を北九州市立大学と共同開発し、生プラセンタエキスのアレルギー安全性を確認しています。

その結果、FILTOM の生プラセンタエキスはアレルギー反応における「①平均値（アレルギー反応の平均値）」、「②標準偏差（アレルギー反応が出る不確実性）」、「③炎症度範囲（アレルギー反応の最大炎症度・最小炎症度の差＝危険性）」のいずれの観点においても低刺激性であることを確認済みです。



【イメージセンシング法アレルギーテスト】について

イメージセンシング法は、北九州市立大学と FILTOM が共同開発した未知の微量成分にも対応した新素材向けのアレルギーテスト法です。これまで目視に頼っていたアレルギー検査に、画像処理による複数同時解析を導入し、皮膚への影響を多角的に分析することを可能にしました。その結果、個人ごとに異なる皮膚感受性を数値化できるようになりました。（「新成長戦略推進研究開発事業（FAIS）」成果）

皮膚炎症画像を画像解析システムで測定し、各スポット n ($n=1\sim1200$) の炎症度 P_n として数値化し、炎症度 P_n は、各試験液ごとに以下の（１）～（３）式で解析します。

平均炎症度 $AP_n = \text{Sum}(P_n)/400 \quad \dots (1)$

標準偏差 $= \{1/n \sum (P_n - AP_n)^2\}^{1/2} \quad \dots (2)$

最大炎症度 $MaxP_n = \text{被験者 } 100 \text{ 名中で最大の } P_n \text{ 値} \quad \dots (3)$

（１）式は被験者全体の平均値で、ブランク（水）の試験値に近くなるほど、炎症リスクが小さいサンプルであることを示します。（２）式はアレルギー反応の不確実性を示す指標で、この値が小さい程、アレルギーになる可能性が低いサンプルであることを示します。（３）式はアレルギーの危険性を示す指標で、ブランク（水）の試験値に近くなるほど、炎症リスクが小さいサンプルであることを示します。以上